

東日本大震災復興支援プロジェクト

第17回活動報告



【参加者】鈴木大亮（総合戦略室）、百瀬琢寛（農業支援室）、佐藤莉菜（北支所）、石井彩音（西郷支所）。山形県農協労組との共同企画として、JA庄内たがわやJA金山などからも参加いただきました。

初めて県内の他JAからも職員が参加。
生産者の善意届ける。

通算17回目となるJA鶴岡復興支援プロジェクトを9月1日、宮城県東松島市で実施しました。今回は山形県農協労組との共同企画として、当JA職員の他、初めて県内の複数JAからも職員らが参加しました。

今回の活動に先立ち、被災地の役に立ててほしいと大山地区の生産者より玄米を提供いただいております。今回の活動では活動拠点としている同市の新東名地区を手分けして巡回して、鶴岡のお米を手渡ししながら、被災者の声に耳を傾けました。

「去年JAの方々が無邪気に接してくれた時に初めて、もっと生きようと思った」

ある現地の方は「去年の6月くらいまでは、いつ死のうかということばかり考えていました。そんな時、JA鶴岡の皆さんらが畑の瓦礫を片付けてくれたり、野菜の苗を持って来てくれたり、そして無邪気に接してくれたことで、震災後初めて心から笑う

ことができ、これからも生きなければと思うことができた」という意味のことをお話いただき、改めてプロジェクト活動の成果を実感しました。

また、初参加者が多かったことから、現地の協力を得て2名の方より被災当時や現在までの心境などについての講話をいただいた他、いまだ復興の目途がたたない被災区域の視察も重点的に行ないました。

今回の活動をきっかけに、他JAでも活動の輪が大きく広がることが願います。（鈴木）



生産者より提供いただいたお米と参加者が持参した枝豆をお届けしました。